

一般社団法人 日本口腔顔面痛学会 2020年度事業報告書

自 2020年9月1日 至 2021年8月31日

一般社団法人 日本口腔顔面痛学会は、口腔顔面痛学に関する研究の進展及びその臨床応用についての研究発表、知識の交換、会員の生涯学習の援助並びに会員相互及び内外の関連学会との連携協力を行うことにより口腔顔面痛学の進歩普及を図り、我が国の学術の発展に寄与すると共に国民の健康と福祉の向上に貢献することを目的とする（定款第3条）。

これらの遂行のために、2020年度（2020/9/1～2021/8/31）に以下の事業を実施した。

1. 学術大会の開催

第25回学術大会

2020年11月22日（日）・23日（月）の2日間において、第25回一般社団法人日本口腔顔面痛学会学術大会（大会長：小見山 道）をWEBにて開催した。メインテーマは「つながる、つなげる、口腔顔面痛」で、多数のシンポジウム、リフレッシュセミナーや一般演題発表を行った。

2. セミナーの開催（セミナー企画運営委員会）

1) 口腔顔面痛診断実習セミナー

【会期】2020年12月1日～12月11日：オンデマンドによる事前講義受講&小テスト

2020年12月13日：ZOOMによるライブ実習セミナー

【会場】WEB開催（オンデマンド+ZOOMによる実習）

2) 口腔顔面痛精神医学セミナー

【会期】2021年1月25日（月）～2月7日（日）：オンデマンド視聴期間

【会場】WEB開催（オンデマンド）

3) 神経障害性疼痛関連歯科学会合同シンポジウム

【会期】2021年3月14日：ZOOMによるシンポジウム

2021年3月14日～3月28日：オンデマンド視聴期間

【会場】WEB開催（ZOOMによる講演配信とディスカッションのライブ配信）

（日本口腔外科学会、日本歯科麻酔学会、日本歯科薬物療法学会、口腔顔面神経機能学会と共催）

4) 口腔顔面痛ベーシックセミナー

【会期】2021年7月1日～7月26日：オンデマンド視聴期間

【会場】WEB開催（オンデマンド）

3. 学会誌（学会誌編集委員会）

第 13 卷 1 号を 2021 年 3 月末にオンライン発刊した。

第 13 卷 2 号を 2021 年 5 月頃にオンライン発刊した。ICOP 分類日本語訳を掲載した。

両号の冊子体は、第 13 卷として合冊して発行した。

論文の投稿は随時受け付けた。

4. 専門資格

1) 口腔顔面痛専門医、指導医、認定医 の認定（専門医等認定委員会）

指導医、専門医、認定医試験を 2020 年 11 月 23 日（月・祝）および 2021 年 5 月 9 日（日）に行った。指導医、専門医、認定医更新審査、研修施設審査を随時メール会議で行った。

2) からだ・運動器の痛み専門医療者認定試験（からだ・運動器の痛み専門医療者認定試験資格審査委員会）

からだ・運動器の痛み専門医療者認定試験」の試験資格審査を行った。

2021 年より一般財団法人日本いたみ財団の「いたみマネージャー」「いたみコーディネーター」へ変わったことに対応して規程の整備を行った。

5. 研究の奨励および表彰

1) 研究の奨励（優秀論文賞委員会）

優秀論文賞推薦委員会を開催し、本会雑誌第 12 巻に掲載された論文の中から優秀論文を 2 編選出のうえ、理事会へ報告した。2020 年 11 月に開催された第 25 回日本口腔顔面痛学会学術大会において優秀論文賞として表彰を行った。

2) 優秀ポスター賞（ポスター賞推薦委員会）

第 25 回一般社団法人日本口腔顔面痛学会学術大会において優秀ポスター賞を選定した。

3) その他

6. 国内交流事業

1) 国内疼痛系学会との交流（理事長）

痛みに関する課題の共有と方策について協議する目的で、日本疼痛学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、日本腰痛学会、日本運動器疼痛学会、日本ペインリハビリテーション学会、日本頭痛学会と設立した「日本痛み関連学会連合」を通じて、国内の疼痛団体と交流した。

2) 神経障害性疼痛関連学会合同シンポジウム（セミナー企画運営委員会）。

神経障害性疼痛関連学会合同シンポジウムを国内歯科系関連学会と合同で開催した。

3) その他（理事長）

本学会の目的達成のため、国・官公庁、国内外の医歯学・医療関係団体との協力、協議を行った。

7. 国際交流事業（国際交流委員会）

1) 国際疼痛学会（International Association for the study of Pain: IASP）および Special

Interest Group of Orofacial Pain (SIG of OFP)と交流した。

- 2) アメリカ口腔顔面痛学会 (American Academy of Orofacial Pain: AAOP) と交流した。
- 3) アジア口腔顔面痛・顎関節学会 (Asian Academy of Orofacial Pain and Temporomandibular Disorders: AAOT) と交流した。
- 4) 国際歯科研究学会 (International Association for Dental Research) の神経科学グループ (Neuroscience Group) および International Network for Orofacial Pain and Related Disorders Methodology (INFORM)と交流した。
- 5) その他

8. 歯科医療の向上のための事業

1) 診療ガイドライン (ガイドライン作成委員会)

慢性疼痛診療ガイドラインを改訂した(口腔顔面痛の項)。

非歯原性歯痛の診療ガイドラインを改訂した。

非歯原性歯痛の診療ガイドラインの GRADE 版作成をした。

口腔顔面痛に対する運動療法の GRADE 版診療ガイドラインを作成した。

2) 口腔顔面痛教育シラバス (シラバス委員会)

米国において Orofacial Pain が 12 番目の Dental Specialty に認証されたことから、その過程に関する資料収集と世界の卒前・卒後教育の動向について調査研究を行った。

3) 社会保険 (医療保険委員会)

- ① 一般社団法人日本歯科医学会連合研究助成金：令和元年度・医療問題関連事業課題：口腔顔面痛に対する認知行動療法および自律訓練法についての調査研究の英文論文を作成し、下記論文が受理された。

Noma N, Watanabe Y, Shimada A, Usuda S, Iida T, Shimada A, Tanaka Y, Oono Y, Sasaki K (2020) Effects of cognitive behavioral therapy on orofacial pain conditions. J Oral Sci, 63, 4-7

- ② 一般社団法人日本歯科医学会連合研究助成金：令和2年度・医療問題関連事業課題：口腔顔面痛に対する運動療法についての調査研究の和文論文を作成し、下記論文が受理された。

島田明子, 野間 昇 (2021) 病態に合わせた運動療法 6. 口腔顔面痛に対する運動療法. ペインクリニック, 42, 491-496

- ③ 一般社団法人日本歯科医学会連合研究助成金：令和3年度・医療問題関連事業課題：口腔顔面痛における定量的な咀嚼筋触診法の確立が受理され、本課題の日本語報告書ならびに英語論文作成を行う予定である。

- ④ 令和4年度医療技術提案書：①三叉神経ニューロパチーに対する近赤外線レーザー機器加算、②口腔外科領域の周術期疼痛に対する三叉神経ブロックの2提案を申請した。ヒアリング実施日◆：2021年7月29日 13:00~13:30

4) 医療問題関連の活動 (理事長・佐々木理事)

コロナ禍での特例措置として歯科においてもオンライン診療が適応となった。これを受けて厚生労働科学研究費による「歯科診療における情報通信機器等を用いた診療についてのルール整

備に向けた研究」(代表：東北大学佐々木啓一教授)に学会として協力し、会員からのアンケート調査ならびに結果のとりまとめを行った。

5) 会員の資質向上 (学術委員会 e-learning 検討部会)

IASP 教育システム開発プロジェクトチームと連携し、会員のための e-learning の開発を行った。

6) 臨床研究 (学術委員会臨床研究検討部会)

学会として以下の臨床研究を検討・実施した。

1. 歯科診療におけるオンライン診療(Tele-dentistry)の現状と課題の研究
2. 精密触覚機能検査と三叉神経ニューロパチーの経過と予後に関わる寄与因子の検索
3. 慢性難治性口腔顔面痛の多面的病態評価
4. 口腔顔面痛疾患のWEBによる臨床統計
5. 口腔顔面痛における認知行動療法の検討 (認知行動療法 WG を設立し、外部委員として、柴田政彦先生 (奈良学園大学)、大野裕先生 (一般社団法人 認知行動療法研修開発センター 理事長) に参画いただくこととなった。)

7) 会員の倫理向上 (倫理委員会)

利益相反に関わる規程・細則を検討するために倫理委員会を開催した。

次年度から研究倫理審査委員会の立ち上げについて議論を開始する予定である。

8) 会員の利益相反 (利益相反委員会)

学術大会発表ならびに登校時に利益相反の開示を求めた。また、役員には、就任時に利益相反についての申告を求めた。

9) その他

9. 広報事業 (広報委員会)

- 1) ホームページの管理業務における運営体制の検討を行った
- 2) ホームページおよびメーリングリスト、ニュースレターでの情報開示を行った。
- 3) 口腔顔面痛学会および口腔・顔面領域の疼痛疾患に関する医療の、医療関係者および国民への周知徹底のための諸施策の実施をした。
- 4) BMS およびPIDAP/PIFP の、医師・歯科医師および国民への積極的な広報をした。
- 5) ICOP 分類の広報をした。
- 6) その他

10. 会議の開催 (総務担当理事)

定時理事会を2020年10月29日および2021年8月26日に、インターネット理事会を合計18回、社員総会を2020年11月22日に行った。

11. 社員選挙及び理事選挙の開催 (選挙管理委員会)

現行社員および理事は、2020年度決算承認直後(2021年11月頃)に任期が終わるので、新社員の選出を2021年7月に行った。新理事は次年度である2021年9月に選出予定である。

1 2. 本学会の社会的地位向上のための活動（理事長）

1 3. その他

1) IASP 教育システム開発プロジェクト（佐々木啓一プロジェクトリーダー）

プロジェクトチームにおいて、口腔顔面痛のための教育アプリケーションの開発を継続した。臨床検討部会 e-learning 検討部会、セミナー企画運営委員会とも連携して教育システムの充実を図った。

2) 目的達成のために必要と認められる事業を行った。

以上